

上野英信と沖縄

眉の清らさこそ
神の島



写真提供 (数字はページを指す)

裴 昭 3、7上

三木 健 4、5、6上、6右下、7下、107、108、111、112、113、114、
118下、272

上野晴子 6左下

我部政男 8

新里幸昭 9上、10

宮城 保 9下

大石芳野 110

前川洋子 109

名護市史編集室 115、116、117、118上、212、213下、215

岡 友幸 カバー、119、120、121、122

千葉安明 211、213上、214、216、217、218

島袋盛敏 273、278、309

渡慶次哲三 267、270、271、275、280、281、284、287、288、289、291、
294、295、298、299、304、305、306、307、310、312、313

上野英信と沖縄

1988年11月20日発行

定価 2000円

編集 上野英信追悼文集刊行会

発行所 ニライ社

〒900 那覇市西2丁目4-5 那覇ショッピングセンター706号室

☎0988-62-7473

発売元 新日本教育図書株式会社

本社 〒750-11 山口県下関市清末1328

☎0832-82-1312

東京支店 〒162 東京都新宿区市谷左内町11 左内坂ハイム203

☎03-267-7408

印刷所 瞬報社写真印刷株式会社

ISBN 4-88024-116-4 C0095 ¥2000E

上野英信と沖繩

揮毫 上野英信
カバ―写真 岡友幸
見返し版画 千田梅二

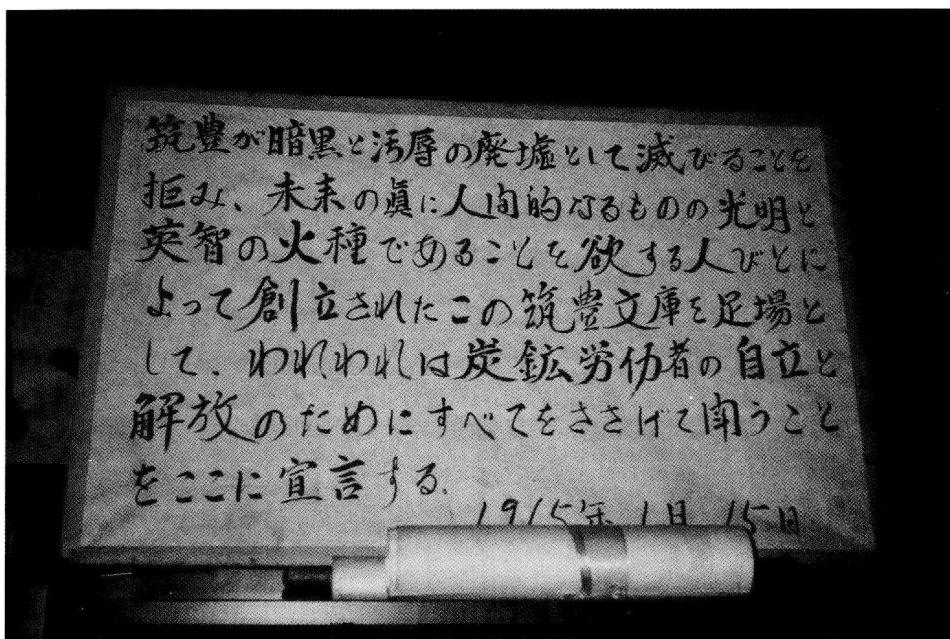
筑豊の上野さん



炭鉱長屋を改造してつくられた「筑豊文庫」に端座する上野英信さん（1983年10月）



炭鉱関係資料がぎっしり並ぶ「筑豊文庫」

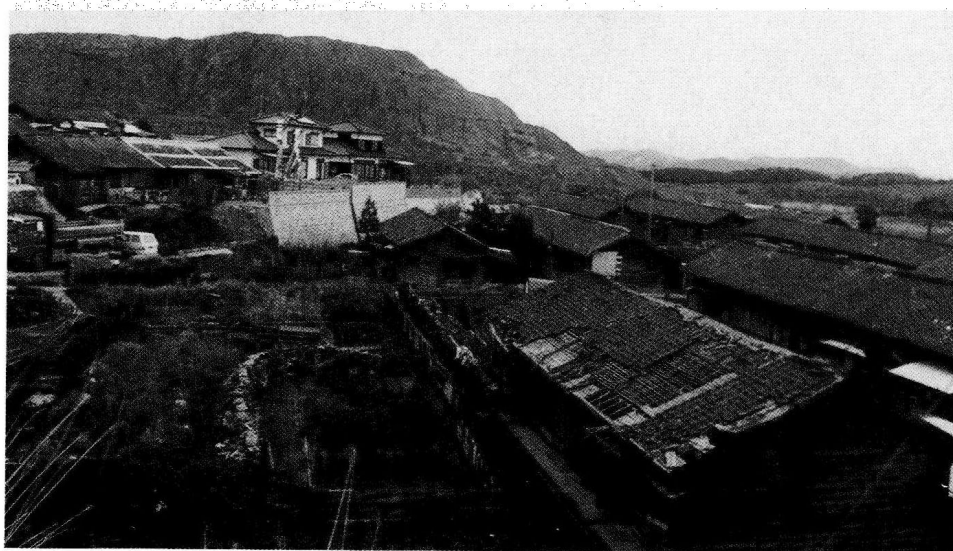


「筑豊文庫」に掲げられた文庫設立宣言

「筑豊文庫」の玄関前に立つ上野さんご夫妻

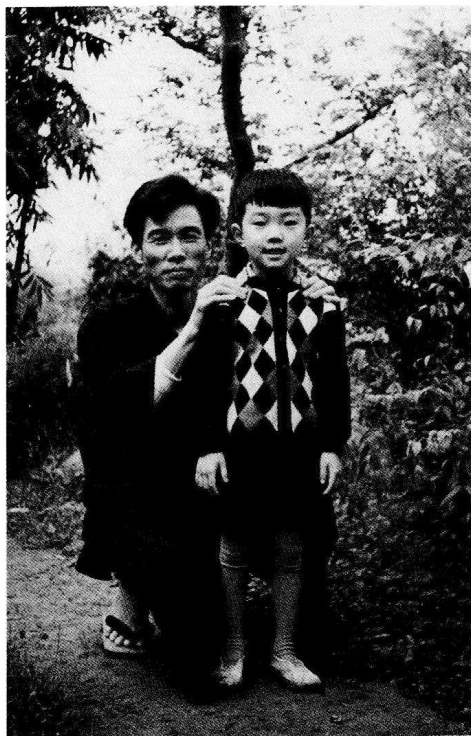


筑豊の炭鉱跡地に今も残る長屋





飯塚市忠隈のボタ山の夕暮れ



『追われゆく坑夫たち』執筆のころ、
ひとつぶ種の朱君とともに



東洋一と、炭坑節にうたわれた三井田川
鉱業所の煙突を見上げる上野さん



炭鉱を描いた山本作兵衛翁ご夫妻(中央)を訪ねた上野さんと版画家の千田梅二さん(右)



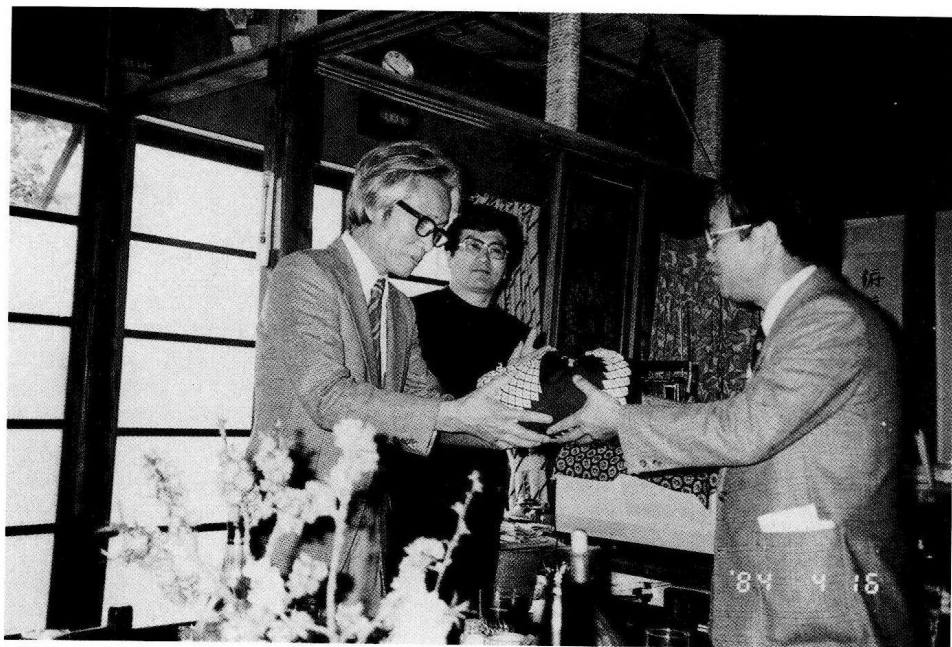
上野さんが炭鉱労働者として働いていたころ仲間と出した文芸誌「地下戦線」。表紙の版画は千田梅二さん作



1984年4月14日福岡県芦屋の国民宿舎「あしや」
で開かれた「筑豊文庫満20年を記念する集い」



「20年記念集会」で沖縄の仲間たちから贈られた泡盛のかめを開ける上野さん



沖縄の仲間たちの要望で『眉屋私記』の直筆原稿を贈る上野さんと受け取る我部政男さん（琉大教授）＝筑豊文庫で

序章 嘉例吉の浪波屋

浪波屋は双頭の岩座である。根もとは一
 かが、上のほうは風浪に削られて、南北にそ
 れぞれ独立している。根まわりはかたど五十
 メートル。高さはハメートルあまり。その根
 の部分から頂上まで、まわりはすべて、切り
 立った断崖絶壁である。

いつころから浪波屋と呼ばれるようになった
 のか、あきらかではない。しかし、その頂
 きに登ってあたりを展望すると、みごとこそ
 の偉さをあらわしな名であることかうなずかれ
 る。それというのも、ここに立つかきり誰し
 き、すなわち彼自身を綾船のんさまに立ち、
 いままさに大海原にのりかそうとしているよ
 うな、心のとまゆきを覚えるからである。

『眉屋私記』の原稿（沖縄県立図書館所蔵）



「20年記念集会」に沖縄からやってきた仲間たちと「筑豊文庫」の前で



晴子夫人の手料理で歓談する上野さんと沖縄の仲間たち＝筑豊文庫で

上野英信と沖繩

断崖絶壁 ふちばんた

岸 本 マチ子

あけがた

針のように細くなつた上野さんが

「いま赤坂から来たんですよ」という

「えっ 東京のですか」

「まさか福岡のですよ」

ふつと笑つた頭のあたりに眉のような月がかかつていて

ぎりつと奥歯を噛む音がした

「実は毛遊びもあしをしたくなりましてね」

「まあー」と絶句し あたふたとあたりを見まわすわたし

気がつくとそのそれは夢で

遠くでだるま寺の鐘がなっていた

上野さんが愛してやまなかつた渡波屋とわやと呼ばれる断崖絶壁ふちばんたは

東屋部川と西屋部川が一気に名護湾にそそぎこむ三角州の頂点にあり
それはまるで物見やぐらのように屹立していた

くまー、うやどう！（ここだぞ親は）

くまー、みいよう！（ここを見よ！）

旅立つ吾が子の船影に向い渡波屋から声をかぎりに

絶叫したという親たち

その岩の上に立つと不思議なことに哀しみとときめきが交互する

若き日大学を途中でやめて炭鉱に入り

ダイナマイトの炸裂に体制の崩壊を夢見ていたアナキストは

修羅の涯てに何を幻視していたのだろうか

汎アジアかそれとも真南風なす道か

沖繩は政治の島であるよりも人間の島であり

芸能の島でなければとそつともらした吐息

奈落にあつてこそ虚飾なく人間であることを辻のジュリグワ一の

切々たる鳥唄によって認識したというのだろうか

いつも己れを断崖絶壁に追い込み

激しい波風にも負けずへこたれず

潮食いガジュマルとなつて頑張つてきた上野さん

それにしても

あまりにあっけないではありませんか その逝りようは

これから渡波屋に立つてわたしは何と叫べばいいのだろう

くまー、みいよう！

くまー、くまー、くまー

(詩人)